

# 調査部報告

## コミュニケーションテストの意義

(調査部長 廣田 幸男)

### ◇平成18年度実施状況

平成18年で中英研コミュニケーションテストが多くの方のご支援とご協力を得て実施することができたことに感謝申し上げます。その実施状況は以下の通りである。

2年 4,957人 (51校)

3年 4,714人 (46校)

総計 9,671人

延べ学校数 97校

学校数 61校

昨年度と比較すると学校数は11校減ってしまいましたが、生徒数は238人増加しました。また、京都から1校、本テストに参加をしていただいた。しかし、目標としていた10,000人を超える参加者数を確保することはできなかった。その原因としては、全般的に少子化が進んでいることや授業時間の確保等で一斉実施が難しいことが考えられるが、本テストのPRがまだ不足していることも大きな原因であると反省している。平成19年度は受験生徒数が10,000人を超えるように、問題づくりとPRに取り組んでいきたい。

### ◇コミュニケーションテストの特徴

①2・3年の9月までの履修範囲で、5領

域別に到達度を測り、東京都全域で実施し、参加校の平均点を示すことができる。

②「テスト問題は授業の裏返し」、「評価は授業の道しるべ」と考え、コミュニケーション能力な授業の内容を生かし、実際の言語の使用場面での運用力を測る。

③実際の生活場面を考慮し、そこで使われている言語をできるだけ多く扱い、自然で適切であることを心がけ、コミュニケーション能力を測る工夫をしている。

④5領域別に、何を測るかというねらいを明確にして問題を作成するので、観点別評価をつける時に評価材料となる。

Listening, Reading → [理解の能力]

Writing → [表現の能力]

Grammar, Vocabulary →

[言語についての知識・理解]

⑤結果は個人成績表で返還される。個人票には、5領域別に各自の得点と自校の平均点が棒グラフで表示されているので、生徒には自分の反省点が明確になる。また、教師には指導の改善に役に立つはずである。

⑥教育測定研究所の精度の高い分析(項目の基本統計量や因子分析)により、常に問題の妥当性や質をチェックし、良問であることを心がけている。

### ◇問題作成への基本的な考え方(概要)

中英研コミュニケーションテストは、コミュニケーション能力を測るためのテストとして質の高いことを自負している。

調査部では「コミュニケーション能力を測る」ということを「言語の形式的な正確さより、実際に伝達できたかどうかの効果

を測る」と、捉えている。そのため、問題作成に当たっては、次のことに留意している。

- ①生徒が実際の生活で出会う事柄にできるだけ近い話題を組み入れる。
- ②実際に使われている言語をより多く取り扱う。
- ③音声面を多く取り入れる。
- ④場面・状況を重視する。
- ⑤英語以外の要素で生徒に負担をかけないように答えやすくする。
- ⑥何を測定したいのかを、はっきりとさせる。

#### ◇活動報告

- ◇5月18日 総会で活動報告・計画
- ◇6月15日 役割分担、作成マニュアルの検討
- ◇6月27日 テストデザインの検討
- ◇7月21日 スペック、原案検討
- ◇7月27日 各学年問題検討
- ◇7月28日 各学年問題検討
- ◇7月31日 各学年問題検討
- ◇8月4日 各学年問題検討
- ◇8月7日 各学年問題最終検討
- ◇8月17日 全問題最終検討
- ◇8月28日 中英研役員会問題検討
- ◇8月30日 録音作業、CD作成
- ◇9月5日 問題完成
- ◇10月初旬 参加校へ問題一式発送
- ◇10月～11月～12月 各校で  
テストの実施→答案送付→採点→答案返送→代金振込→テスト結果の送付
- ◇1月中旬～下旬  
報告書作成、印刷発注

◇2月下旬 報告書完成、発送

◇3月上旬 今年度の反省、次年度の計画作成

#### ◇10年間の実践研究のまとめ

今年度は通常のコミュニケーションテスト作成の他に、根岸雅史先生（東京外国語大学教授）の指導を受け、本テストの10年間の実践研究をまとめる活動も行った。

「授業がコミュニケーションになったら、テストもコミュニケーションに！」では、どのようにしたらテストがコミュニケーションになるのか？10年間の実践研究を紹介しながら、リスニング、リーディング、ラフティング、文法・語彙のテストについての実践研究から良問を精選し紹介することにした。この春に、『コミュニケーションテストへの挑戦－A Practical Guide to Communicative Testing』というタイトルで三省堂から出版される予定である。

#### ◇テスト参加へのお願い

ぜひ、19年度テストへの参加を重ねてお願いすると同時に、年度当初にテスト参加費として、生徒1人280円（個人情報保護のためのマークシート作成・処理等の経費がかかるため、例年の値段より30円値上げを予定している）の予算の計上をお願いします。

#### ◇最後に

本年度もご多忙な中、ご指導くださった東京外国語大学教授根岸雅史先生と熱のこもった検討を重ねた調査部員に心より感謝申し上げます。